

令和6年度 地域の児童等に対する支援体制の状況及び中核機能としての体制の確保に関する取組の実施状況

法人名	伊佐市
事業所名	伊佐市子ども発達支援センターたんぼぼ
住所	伊佐市大口上町46番地1
連絡先	0995-22-5566
適応加算種別	中核機能強化加算Ⅲ（主として専門的な発達支援及び相談支援を行う上で中心となる者を配置）
運営委託先	社会福祉法人正念寺福祉会 理事長 吾孫子 幹

1. 基本要件

項番	項目	実施内容
1	市町村及び地域の関係機関との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会（こども部会、相談支援部会含む）への参加</li> <li>・こども部会は部会長となり、現場での困りごとなどを検討</li> <li>・市の支援検討会魏、システム検討会への参加</li> </ul>
2	幅広い発達段階及び多様な障害特性に応じた専門的な発達支援及び家族支援を提供する体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブや放課後等デイサービス利用児童及び保護者への支援</li> <li>・地域医療機関からの専門職の派遣による専門的な発達支援</li> <li>・毎月、グループごとに保護者カンファレンスの実施</li> <li>・保育所等訪問支援実施体制の確保</li> </ul>
3	地域の障害児通所支援事業所との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会・講演会の実施 令和7年2月8日「『子どものキモチはどこにある？～子どもとおとなの「安心」子育て・保育～」 講師：池添素先生NPO法人福祉広場理事長、京都市保育連盟巡回保育相談員</li> <li>令和7年2月9日「いつからでもやり直せる子育て～子育ての悩みを発達と生活の視点でつなぐ～」 講師：池添素先生(NPO法人福祉広場理事長、京都市保育連盟巡回保育相談員)</li> <li>・こども部会でのケース検討の導入</li> <li>・情報を入手した研修会については、メールで案内</li> <li>・見学や研修の受け入れ</li> </ul>
4	インクルージョンの推進体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所等訪問支援実施体制の確保</li> <li>・こどもの状態に応じて、並行通園への移行を進める</li> <li>・地域理解の促進と、教職員交流による地域の小中学校の支援体制の充実を図るために、伊佐市に新しい特別支援学校を作る会の誘致活動へ取り組んでいる</li> <li>・保育所等関係機関の要請に応じて園を訪問し、相談に対応している</li> <li>・保育所等関係機関向けの研修会の案内や実施 令和7年2月8日「『子どものキモチはどこにある？～子どもとおとなの「安心」子育て・保育～」 講師：池添素先生NPO法人福祉広場理事長、京都市保育連盟巡回保育相談員</li> <li>令和7年2月9日「いつからでもやり直せる子育て～子育ての悩みを発達と生活の視点でつなぐ～」 講師：池添素先生(NPO法人福祉広場理事長、京都市保育連盟巡回保育相談員)</li> </ul>
5	入口としての相談機能を果たす体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児相談支援の実施（県指定あり）</li> <li>・親子教室へ毎週参加し、こどもや保護者への支援を実施</li> </ul>
6	地域の障害児支援体制の状況及び基本要件に関する取組の状況を公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本書類により公表</li> </ul>
7	従業者に対する年間の研修計画を作成し、当該計画に従い、1年に1回以上研修を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修は毎月実施</li> <li>・園外の各種研修についても、毎年参加し、支援の質について学びを深めている（全障研、全通連、県通連、九州合研、保問研、県主催研修会など）</li> </ul>

2. 市評価

該当に○	評価内容	評価（伊佐市）
○	報告の通り、中核拠点機能に求められる役割を理解し、中核拠点登録適合チェックリストの7項目を満たしている。	評価年月日：令和7年3月31日 委託先法人が中核拠点機能に求められる役割を理解し、中核拠点登録適合チェックリストの7項目を踏まえ、適切に業務運営できていると評価します。
	報告の通り、中核拠点機能に求められる役割を理解しているが、中核拠点登録適合チェックリストの7項目は不十分である、	
	中核拠点施設適合チェックリストの7項目の報告があったが、適切に行っていると評価することは難しい。	